

第1回 一般廃棄物処理基本計画等策定委員会 議事要旨

開催日：令和5年7月4日（火）13：30～16：00

場所：蕨戸田衛生センター組合 2階 研修室

出席者：

委員：長森委員、植田委員、鴨下委員、荒井委員、大熊委員、齊藤委員、溝上委員、
鈴木委員、木原委員、小柴委員、香林委員、渡辺委員

管理者：頼高蕨市長

事務局：山本次長、浜野環境経済部次長、木村総務課長、加藤安心安全推進課長、

河野施設課長補佐、甲斐総務課長補佐（進行）、高津戸経理係長、飯田技術主査

関係者：（株式会社エイト日本技術開発）王、渡邊

配布資料：

資料 1：委員会設置要綱

資料 2：委員名簿

資料 3：委員会の会議の公開について

資料 4：基本計画策定の必要性と流れ

資料 5：基本計画目次案

資料 6：委員会のスケジュールと内容について

資料 7：ごみ処理の現状について

資料 8：食品ロス実態調査概要

資料 9：アンケート調査概要

資料 10：アンケート調査票

参考資料：ごみ処理基本計画（平成25年3月）、同概要版

参考資料：ごみ処理・資源化量推移（平成18年～令和9年）

1. 開会

2. 委嘱式

3. 管理者あいさつ

4. 委員及び事務局の紹介

5. 委員長、副委員長の選出について

- ・設置要綱第5条に基づき、委員の互選により長森委員を委員長に、植田委員と鴨下委員を副委員長に任命。

6. 諮問

7. 委員会の概要・運営について

- ・事務局より、資料2「委員会設置要綱」の説明。

8. 議題

(1) 策定委員会会議の公開について

- ・事務局より、資料3「委員会の会議の公開について」の説明。
- ・傍聴人は2名までとする。本日傍聴を希望される方はいるか。(委員長)
→ 本日の傍聴希望者はいない。(事務局)

(2) 基本計画策定の必要性と流れ

- ・事務局より、資料4「基本計画策定の必要性と流れ」及び資料5「基本計画目次案」の説明。

(3) 委員会のスケジュールと内容について

- ・事務局より、資料6「委員会のスケジュールと内容について」の説明。

(4) ごみ処理の現状について

- ・事務局より、資料7「ごみ処理の現状について」及び参考資料「ごみ処理・資源化量推移(平成18年～令和9年)」の説明。
- ・蕨市の最終処分量について、環境省への報告値に誤りがあったことから本資料にも誤った値が記載されているため、修正した資料を後日委員に送付する。(事務局)
- ・蕨市も戸田市も各類似自治体よりもやや優れており、特に戸田市は費用面において優れている。これは共同処理のメリットということか。(委員長)
→ 基本は両市の人口に応じて処理費を負担しているが、蕨戸田衛生センター組合が戸田市にあるため、蕨市が6.5/100多く、戸田市が6.5/100少なく負担していることから、戸田市の方がコスト面で優れている結果となっている。(事務局)
→ 両市を合わせても、他自治体よりもコストの面で優れていると言える。(委員長)
- ・各市の優れている点や、戸田市は工場が多い等の特徴はあるか。(委員長)
→ ご理解のとおり、類似自治体と比較して戸田市は工場が多く、蕨市はやや工場が少ないことが事業系ごみ排出量に表れていると考える。また優れている点としては、両市とも、人口が増加しているにも関わらずごみが減少傾向にあることが挙げられる。(事務局)
- ・近年はスーパーでのペットボトルの店頭回収や分別など、市民の分別精度が上がってきていると感じている。新聞なども販売店が回収しトイレットペーパーと交換してくれる等の取組もある。SDGsの達成も目指し、今後は市民・事業者も一体となって、より一層、ごみが資源に転換されるように進めていければよいと考える。(副委員長)
→ 店頭回収や新聞販売店による回収は、行政としてのリサイクル率に反映されるか。(委員長)
→ リサイクル率には反映はされない。(事務局)

- リサイクル率のみにこだわらず、資源化に係る様々な取組は地道に進めていかなければならない。(委員長)
- ・ 今回の資料の基礎データを念頭に、今後の検討を進めていきたい。(委員長)

(5) 食品ロス実態調査について

- ・ 事務局より、資料 8「食品ロス実態調査概要」の説明。
- ・ これまで、両市においてこのような食品ロスの調査を実施したことはあるか。(委員長)
 - 今回が初めてとなる。(事務局)
 - サンプル数は少ないものの、傾向は把握できると考える。(委員長)
- ・ 第 2 回委員会では、食品ロス実態調査の結果報告がなされるのか。(委員長)
 - 第 2 回委員会と 2 シーズン目の調査日が近いことから、報告は第 3 回委員会となる可能性もある。(事務局)
 - 数値の結果だけではなく、調査中の写真などもあるとよい。(委員長)
 - 食べ残しを並べた写真など、今後の広報にも使用できるような写真の撮影を予定している。委員会においても、写真とともに報告する。(事務局)
- ・ 事業者から出るごみも調査するのか。(副委員長)
 - 今回はご家庭から出るごみを対象としている。(事務局)
 - 事業者からのごみはこれまでに調査を実施しているか。(委員長)
 - 今回予定しているような調査は実施していないが、処理不適物が含まれないかの搬入物検査や、ごみピット内のごみ質調査は別途実施している。(事務局)

(6) アンケート調査について

- ・ 事務局より、資料 9「アンケート調査概要」及び資料 10「アンケート調査票」の説明。
- ・ 事業者アンケートについては、市民アンケートとは 1, 2 ヶ月程度遅れての実施を想定している。委員会場で資料をご確認いただく時間が確保できないことから、資料が取りまとめ次第送付するため、ご確認いただきたい。(事務局)
- ・ 二次電池によって施設に損害が生じ、修繕費も必要となる。メディアや今回のような委員会において、積極的にアピールをしていくべきと考える。(委員)
 - 二次電池以外にも、ライターやガスボンベが原因となった収集車の爆発等の事例もあったと聞いている。この組合では、二次電池以外の爆発や火災の原因はあるか。(委員)
 - スプレー缶等、様々な要因で火事は発生しているが、原因を特定することは困難であることも多い。二次電池は影響が大きいことから、今回設問として挙げている。(事務局)
- ・ アンケートについて、自治会や町内会にも意見を聞いてもいいのではないかと。(委員)
 - 検討する。(事務局)
- ・ このようなアンケートをこれまでに実施したことはあるか。また、質問事項が多いが、回収率はどの程度を想定しているか。(委員)
 - このようなアンケートを実施したことはない。設問数は他事例を基に 20 問程度を目指していたが、調査したい内容が非常に多岐にわたったことから、現在の設問数となった。各自治体で大々的に実施するアンケートでは回収率は 30~40%程度である。30%程度あ

れば、今後の参考になると考える。なお、今回は Web でもアンケートを実施することで、回収率の向上を図りたいと考えている。(事務局)

- ・ 資料内の質問意図も、アンケート用紙に記載されるか。(委員)
 - 記載しない予定である。(事務局)
 - 記載があることで、そのようなことに役立てられるなら回答してもいいと考える可能性があるのではないか。(委員)
 - 同様に考える。(委員長)
 - 記載を検討する。(事務局)
- ・ 蕨市と戸田市で表が分かれている設問について、誤って回答する可能性がある。(委員)
 - アンケート調査票を市ごとに分ける等の対応は可能か。(委員長)
 - 現在は同じ調査票で実施することを考えている。可能な範囲で対応を検討する。(事務局)
- ・ アンケート調査について意見がある場合、いつまで受け付けるか。(委員長)
 - 7月10日(月)までをお願いしたい。(事務局)
 - アンケート調査票の最終版は委員にも配布するか。(委員長)
 - 配布する。(事務局)
- ・ 事業者の送付先も無作為に抽出するか。コンビニや飲食店等、食品ロスが多い事業者に多く配布する等の考慮はするか。(副委員長)
 - 業種ごとに、その事業者数に応じて配分することを考えている。(事務局)

9. 閉会